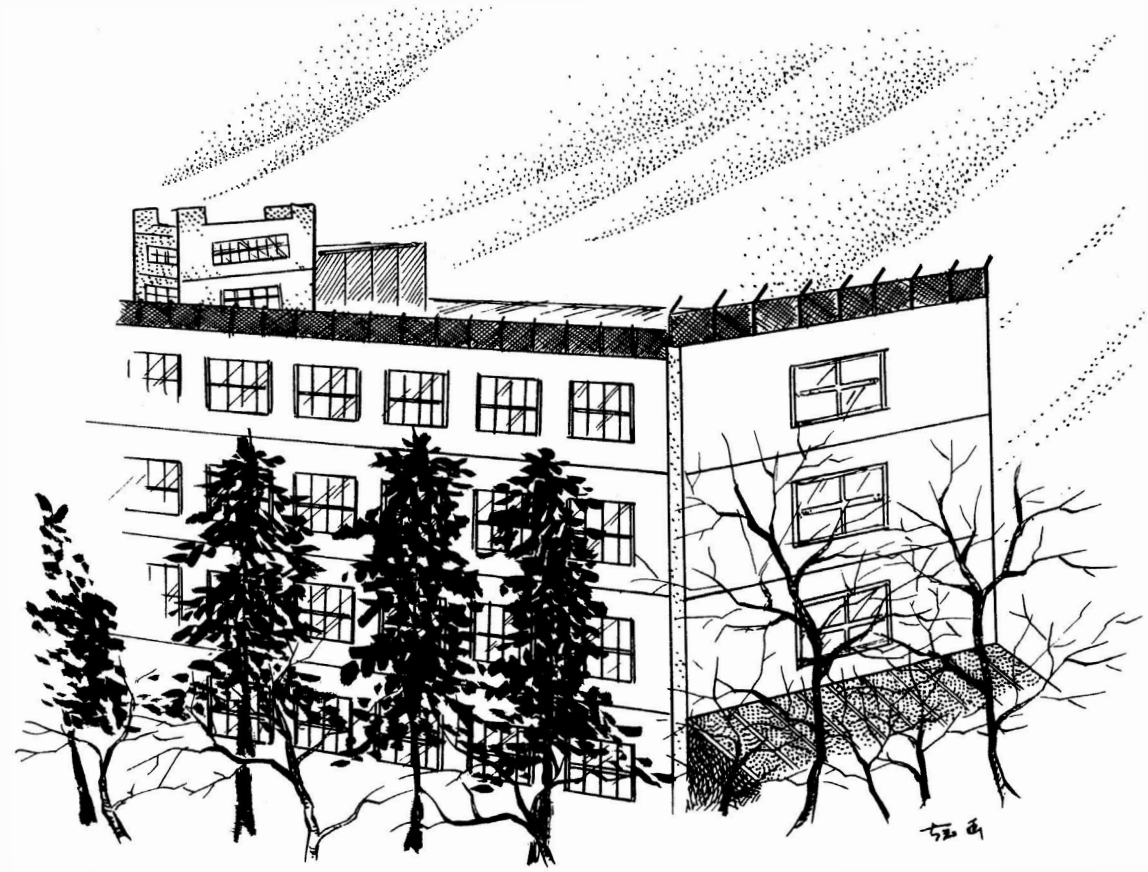
学園ニュース

富山大学

NO.47

編集　学園ニュース編集委員会　発行　富山大学　　昭和60年3月15日



学内風景（その12）「冬の校舎」（教育学部）　前田　智恵子

目　　次

卒業生へのはなむけの言葉 …… 各学部長及び経営短期大学部主事 …… 2
退職者のあいさつ …… 8
瀋陽瞥見 …… 人文学部教授　三宝政美 …… 9
昭和59年度富山大学公開講座を終えて …… 公開講座委員会委員長　吉田順作 …… 11
来日の感想 …… 中国政府派遣研究留学生（工学部）楊　鴻鈞 …… 12
学部だより …… 13
学生部だより …… 14

卒　業　生　諸　君　へ

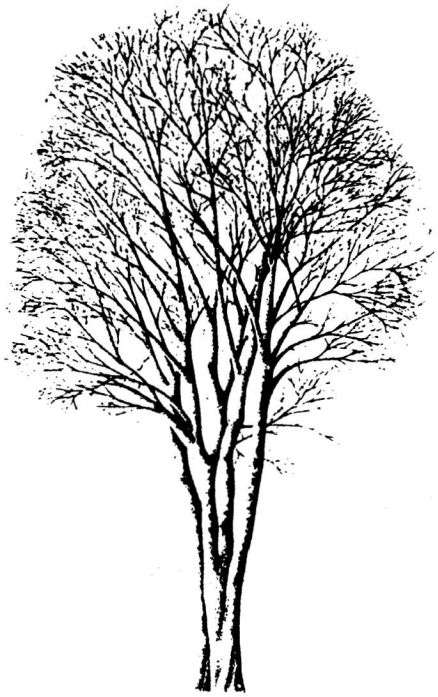
人文学部長　楠　瀬　　勝

卒業生諸君，今，卒業にあたってその喜びをかみしめているとともに，新たな希望とこれからへの決意にもえていることと察します。諸君の今後の発展と活躍を衷心より願ってやみません。

人文学部卒業生の場合，さらに進学して学業を続ける人もありますが，大多数の諸君は教職をはじめ，さまざまな職業に従事することになります。教職などにつく一部の人々を除けば，他は殆んどの場合，これからの職場において，大学4年間に学んだことが直接に役立つことはないかもしれません。しかしながら大学での学業，とくに2年半の専門教育課程において修錬を重ねたところは，全く無意味なものでしたでしょうか。

人文学部の各専門分野は，それぞれ独立の学問としてあって，研究の対象も方法も独自のものです。諸君らはそのいづれかについて学び，そのなかで，それぞれの特有の思考方法あるいは研究手法を身につけたことと考えます。僅か2年半の専門教育期間でのことですが，20才代のはじめの時期に身につけたその思考方法や手法は一つの習性となって，今後，ときには無意識的にさまざまな場において大きな役割を果たすことになるといっても，決していいすぎではありません。今，卒業するにあたって専門とした学問の束縛から解き放されたいと思っている人でも，決してその例外ではありません。これからどのような分野に進もうと，これまで自己の専門とした学問に対して，何時までも関心を向けていてほしいと願うものであります。

人文科学の諸分野は前述のようにそれぞれ独立的でありますが，しかしまた諸分野共通する側面もあります。それは何といっても、人間の尊厳性を追求し，それを守ることにあると考えます。現在のように人間の尊厳性がおかされることの多いとき，人文科学の諸分野全体に目を向けてほしいと願う次第です。



卒業生諸君におくることば

―― 師 弟 愛 の 魂 ――

教育学部長　大　澤　欽　治

卒業生諸君，ご卒業おめでとう。

諸君の人生にとって，これは小学校入学以来16年の長きに亘る学窓生活の最後でありまして，蛍雪の功なり教育学士として卒業され，いよいよ新たな人生航路に乗りだしていくときでありましょう。先づは，諸君を慈愛深く見守り育ててくださったご両親やご家族の方々に，「ありがとうございました」と心からの感謝の念を表明することでしょう。また，幼少より今日まで手をとり励まし，教え導いてくださった多くの先生方にも，心身共に健康で首尾よく学業を終えたことを報告されることでしょう。

さて，諸君が船出していく大海，即ち社会はもとより，職場である教育現場がかなり波高く荒模様であることは，自他共に感知しているところであります。さきごろ，臨時教育審議会が設置され，かなり果敢に学制の改革について討議検討されています。つまり，今日の六・三・三制に対する改善，教育の自由化あるいは国立大学の民営化，共通一次入試の改革，教員免許法や採用に当っての試補制度など，数多くの問題が今日的問題としてとりあげられています。このような教育問題が政治行政の場で本格的に取組まれるのは，戦後始めてでありましょう。「教育は正に国家百年の大計である」という古今の名言を肝に銘じて，取り組まれることを諸君に期待したいものです。

正月のテレビの深夜放送で，作家で教育審議委員の一人である曽野綾子さんと，百歳を過ぎて今なおかくしゃくとして働いておられる某教育者との対談がありました。曽野さんの「現今教育現場に起きている問題に対してどのように対処したらよいか。最も重要なものを一つだけあげてみてください。」という質問に対して，「それは立派な教師を育成することしかない。子供達に信頼され，子供達をよく薫陶できる教師であれば，こんなことにはならないでしょう。」と即答されたのです。私はこの答を非常にきびしく心に受けとめました。家庭の親達は子供の非行や暴力を学校や教師のせいにしたがり，学校では，社会や家庭のせいにしたがる傾向にあるようでありますが，これは，お互いが謙虚に，自己の責任として反省することがなければ，容易に解決の道は開かれないと言っても過言ではないでしょう。

私共は諸君と共に，この問題をじっくりとよく考えなくてはならないと思いますが，学校現場に乗り出していく諸君の眼前に，その日からすぐに，これらの問題がのしかかってくることが予想されるだけに，一抹の不安をぬぐい去ることはできません。諸君は，新米教師であっても，さっそくにクラス担任となり，一国一城の主とならなければならないのです。他方，子供達にとっては，教師を自分の好みで選択することは全くできない運命にあるのです。学級の最高責任者としての教師である諸君が，もし子供達の心中を洞察できかねるようなセンスの持主であり，子供達の心の要求を解することもできず，ユーモアひとつとばせない味気ない学級経営を行うとしたら，そのクラスは一体どんなことになるでしょう。ここでは，もの知りで豊富な知識をもっているとか，いろんな技術が身についているとかいう以前に，人間として，子供達の側に立ち，子供の座におり立つことのできる能力の有無が，大きな問題になってくるのでないでしょうか。いかに知識や活動力があっても，教育的センス，即ち，子弟愛の魂のこもらぬ人間不在の教師であってはならないのです。近頃やかましい試補制度というのも，その発想は人間教師としての資質を見るところにあると思われます。

そもそも大学の勉学は，諸君が社会に出て，現場の実践活動のなかで，多くの困難や苦悩に遭遇しながら，自己を鍛え上げていくことのできる基礎を身につけることであると考えられます。諸君の身についたこれらの基礎の上に，失敗や挫折を乗り越え，真実の自己の道を発見していかれることを，念願してやみません。人間の一生は，自己教育の連続でもありましょうから……。

さて，人の師となることは，きびしくもまた楽しいものです。若い諸君の登場を多くの子供達は待望し，彼等のひとみは期待をこめて輝くことでしょう。未知なる魂との出合いは，諸君にその神秘な多様性を発見して開いていく喜びをもたらすでしょう。また，かって自分も通ってきた道を振り返りながら，共同体験する師弟としての同行は，他の職場では得られぬ生きがいであると思います。

最後に，私の長い教員生活の中で座右銘としてきた古くて新しいことばを一・二，おくりましょう。

「人は環境の子であれば，子供達は常に教師の人間としての能力の高さに比例して育つ。」（鈴木鎮一）

「世の中で一番楽しく立派なことは，生涯を貫く仕事をもつことです。」（福沢諭吉の心訓より）

諸君のご健勝と社会への貢献とを心から祈念・期待いたします。

仕事にはいつも Why How の姿勢を

経済学部長　瀧　　好　英

経済学部を巣立っていかれる諸君の卒業とそして社会参加の門出に対して，心からの祝福と激励の拍手を送りたい。過大表現の社交辞令と受け取られるかもしれないが，私としては，決して誇張はないつもりである。と言うのは，諸君は，私が学部長として送り出す初めての卒業生だからである。昨年9月30日に学部長に就任して以来やっと半年を経過したところで，その間，諸君に対して学部長として接する機会がほとんどなかったように思われる。それにも拘らず，組織・制度の関係上，学部長として諸君に祝福の拍手を送ることのできることを大変光栄に思っている次第である。

学部長としての私の経験はわずか半年の期間にすぎず，いまだにわからぬことばかりで周りの方々にお世話をかけることが多い仕末であるが，学外での社会経験は，すでに諸君もご存知の通り大変長いものであった。4分の1世紀を超える長い経験である。その間，何人もの上司に仕え，そうして実に多数の人の上に立って仕事をしてきたことになる。そうした経験によって会得した考え方の中から，ほんの一端ではあるが一文を綴って拍手の代りとさせていただくこととしたい。

まず諸君は，職場に着任したら，上司や先輩達から仕事について手ほどきを受け，手順を説明してもらうことになるだろう。そのときの諸君の姿勢が，今後どの方向に成長していくかの鍵となるように思われる。10の仕事をするのに10の説明を受けて，言われた通り，教えられた通りの思考・手順で仕事をしていたのではほとんど進歩は望めないだろう。実地訓練の効果しかないからである。算盤とか卓上計算機の訓練のような効果しか期待できないのではないだろうか。そこで私は，「仕事というものは1から10まで教わるものではない」と腹を決めておくことをお勧めしたい。諸君の年代の方々の中には，まず家庭で，そうして次は学校で，過保護に育てられてきた人が多いように見受けられる。「過保護」という語には種々の意味が含まれているのかもしれないが，私は「何もかもすっかりお膳立てしてもらわなければ，自分ではほとんど意思決定や行動ができないように，教育・躾をしてしまうやり方」と解している。こうした過保護な教育がいまや社会的風潮となっているようで，私自身，講義の仕方や説明の仕方が必要以上に具体的個別的になっていることを痛感している。そうしなければ大半の学生の理解が得られないからと考えてのことではあるが，無意識のうちに風潮に迎合していることに慄然とすることがある。

少なくとも大学を出た社員ならば，一定の仕事について目的なり主旨なりを説明してもらったら，あとは「従来はどういう方法で処理していたか」を参考にしながら，自分の考えで自分に合ったやり方で最適法を見つけていく姿勢が肝要である。したがって，一つの仕事について目的（主旨）を聞かされたら，まず，「なぜ，どうしてそうなるのか」をあくまでも追求し，さらには，最も効率的かつ明快な処理をするには「どのようにすればよいか」をつねに自ら思考していく姿勢が必要になる。何事にも Why How の態度で接するよう絶えず心掛けながら仕事をしていけば，初めは「仕事をさせられている」，「使われている」の感覚であったのが，次第に「自分の考えに基づいて自ら働く喜びと楽しみ」が出てくるはずである。この喜びと楽しみが出始めたとき，そのときこそ諸君は一人前の社員になったあかしである。「使われている」という感覚が強いうちは，社会人としても一人前にはなっていない，と私は感じてきたものである。

このようにして一人前の社員になるには，事務的仕事の場合なら10年ぐらいはかかると思う。10年たってやっと一人前，5年では半人前というのが私の評価法である。したがって，1年や2年の経験で「この仕事は自分には向かない」とか「この会社は自分には合わない」などと結論づけるのはナンセンスであり，一人前，百歩譲っても半人前ぐらいになって初めて妥当な判断ができるようになる，と言えるのではないだろうか。10年たって振り返ってみたとき，入社当時の自分がいかに幼稚で甘かったかに気づくことだろう。そのように感じたとき，諸君は長足の進歩を遂げたわけで，10年たっても幼稚で甘かったと感じないようだったら，その人はほとんど進歩しなかったことになろう。よく，「一つ上のポストを見習え」と言われる。新入社員最初の10年間は，まず，「係長とはいかにあるべきか」をも同時に考えながら仕事をすることが大事であると思う。それは，自分以外の人々にいかに目を向けるかの訓練でもあるわけである。自分のことし

か考えられぬようでは，人の上に立つ器ではあり得ない。かくして，やがて自分が係長のポストに着いたなら，「部下の教育指導はいかにあるべきか」はすでに会得しているわけで，何もかも教え込んで枠にはめるやり方に陥らずにすむことだろう。部下の一人一人について，特性を活かすにはどういう指導法が適切かを考えていくこと，これが10年後の思考方向となるのではないだろうか。

学問の世界も実務の世界も，Why How の姿勢がまず基本をなすことでは全く同じであると私は考えている。卒業生の諸君には，健康に留意しながら納得のいく仕事をしていかれることを期待して止まない。

卒業生へ贈る言葉

理学部長　中川正之

皆さん，卒業おめでとう。長い学生生活に別を告げ愈々明日から実社会へ踏み出すことになりました。講義や試験等々多くの束縛からの解放感，未知の社会や職場への期待と不安が交錯していると思います。斯く云う私自身は戦時中に大学を卒業，直に研究室に残り，暫くしてから富山大学へ勤めて以来その儘今日迄過してきたので，現実の社会の厳しさを体験していません。又，私の精神構造も云はば戦前・戦中派（今日このような言葉が通ずるか知りませんが）ですので現代の皆さんの心の琴線に響くような励ましの言葉はとても持っていません。それでも皆さんをいざ社会へ送り出すという日になって一人一人あれこれ注意したい，云っておきたいと思うことは儘きません。然し人間はしょせん自分で学び自分で考え，或時は無駄と失敗を重ね，行詰り乍らも自分自身の力に頼って生きてゆかねばなりません。ですからここで敢えて云わねばならぬ程のことではありませんが，一二記すことにします。

その一つは御別れの時には誰でも云う「体に気をつけなさいよ！」です。体調を最上の状態に置くことは人生を送る上での最も基本的条件です。健康状態の如何は精神の集中力，それを接続させて呉れる肉体的耐久力，そして頭の回転の早さ，インスピレーション等私達の精神活動を大きく左右します。将棋の大山十五世名人は長い間名人位を保ち，また，多くのタイトルを獲得しましたが，健康を保つに他人の及ばぬ摂制と細心の注意を払ったと聴きます。皆さんは社会に出て夫々の分野で人並以上の活躍をしようと云う気があるなら先づは健康を第一に考えること，そして若い内にスポーツ等によって強靱な体力養成を心掛けて慾いと思います。

次も全くありふれた言葉「一生懸命頑張れよ！」です。皆さんは大学で専門を学んだと云ってもそれは基礎的な学力を養ったのであって実際の知識は狭く浅いものです。従って多くの職場では学校で習ったことを直接使うと云うことは殆んど無く新しい勉強を初歩から始めなければなりません。社会ではプロとして身を立てるからには当然乍ら仕事は完全であることが要求されます。問題を半分程解けば単位が貰え，追試，再履修等のある世界ではありません。生半可な知識や能力では済まされず徹底した勉強をしなければなりません。

人の能力は勉強によって或は修練によってどこ迄も伸びる可能性をもっています。一度に両手で沢山の鍵盤を叩いて音楽を演奏するピアニスト，多くの桁の数を暗算で加減乗除する珠算家，これ等は修練に修練を重ねて素晴らしい能力を身につけたものです。或相撲評論家のテレビ対談が強く私の印象に残っています。力士が数日練習を休めば忽ち筋肉は弛み勘が鈍り，元に戻るにその何倍もの努力の日数が要る。それは恰も下りエスカレーターを逆に上へ登るようなもので現状を保つに絶えざる努力が必要だし，更に上位に昇進するには他人の何倍もの努力が要るのだと。人間のもつ様々な知的能力や人格形成にさえも同じことが云えると思います。

皆さんはこれから一人の社会人として出発しますが一回きりのやり直しのない人生です。人の慾望には限りがありませんので振り返って悔いるところのない満足な生き方をしてきたと思うことは無いでしょう。然し少くとも人生の夫々の時点で自分相応に惜しみなく精一杯の努力を払った生き方をして慾しいと思います。

卒業生の皆さんへ

工学部長　位崎敏男

工学部，工学研究科を卒業並びに修了される皆さん，まことにお目出とうございます。またこれまで長い間，皆さんを支へ励ましてこられたご両親やご家族の方々にも，心からお祝を申し上げます。

光陰矢の如しと申しますが，早いもので，小学校以来十数年にも及ぶ皆さんの長い学校生活も，間もなくおわらんとしています。そしていよいよ波風荒い，多事多難な実社会へと巣立ってゆかれるわけであります。喜びもあり，またなんとなく心残りや不安もある。新しい門出を迎えて，皆さん夫々に大いに感ずる所があろうかと思います。

人間長い一生には，必らずいくつかの節目というものがあります。皆さんは今そうした節目の一つを迎えられたわけでありますが，私はそうした人生の転機にあたっては，矢張りそれなりの初心といゝますか，自覚といいますか，そうしたものが無ければいけないのではないかと常に考えております。言葉を換えれば，皆さんの人生や仕事に対する姿勢や価値感の再認識，再構築という風にも言えるかも知れません。そうした反省反芻があってこそ，それを駆動力として，これからの新しい飛躍が生まれるのではないでしょうか。何事も初めが大切であります。そのような意味で，今皆さんが立っておられる人生の大きなチェック・ポイントを，ただ漫然と無意識に通り過ぎるような事があってはならないと思います。この際大いに感じ大いに考えて，初心も新たに姿勢を正して，新しい社会生活へのスタートを切って戴きたいものと思います。

昭和もいよいよ60年代の幕明けを迎えました。これから21世紀にむけて，時代がどのような展開をみせるのか，必らずしもさだかではありませんが，しかし何れにしても，急速な科学技術の進展を核として，社会は激しく動いてゆくにちがいありません。あるいはいささか極論に過ぎるかも知れませんが，技術が社会をリードし，変革してゆく時代と言えるかも知れません。そしてまた，そうした激動の時代に果敢に挑戦して，それを動かしてゆくものは，意欲ある若い頭脳である事も確かであろうかと思います。

このように考えますと，この多難ではあるが多くの可能性を持った時代に，大きな期待をになって，技術者としてのスタートを切られる皆さんの前途は，洋々たるものがあろうかと思います。と同時にその社会的責任もまた極めて重大と言わなければなりません。単なる技術馬鹿ではなく，技術のもつ社会的意義，技術の倫理性をしっかりと凝視して，技術がそれ自身を目的化して倫理性を失うことへの自戒を常に忘れてはならないものと思います。

皆さんの今後のご健闘とご多幸を心から願っております。

卒業生に期待する

経営短期大学部主事　松　嶋　道　夫

経営短期大学部の卒業生の皆さん，卒業おめでとうございます。皆さんは，その大部分が昼間職場で働く勤労者かあるいは昼間何らかの目的をもって生活をした社会人であり，昼間の仕事を終えて，一般の人々が休養や娯楽にあてる夜間の6～9時という時間に経短にかよって勉強に励んでこられました。働き学ぶ3年間は大変つらい面があったでしょうが，その試練を乗り越えて卒業をむかえられたことに敬意を表したいと思います。この労苦に打ち勝った経験は，皆さんの将来に必ず役立つことと思います。

さて，皆さんは，卒業にあたって，さまざまな感慨とともに，将来の生活への新たな決意で身を引きしめておられることと思います。そこで，二つのことを述べておきたいと思います。

第一は，社会人としての自立への期待です。皆さんは，卒業によって，夜の通学と単位をとる義務的勉強はなくなり，夜を自由に楽しめる解放感にひたっておられることでしょう。今まで夜の拘束が大きかったから当然のことかもしれませんが，しかしせっかくできた夜学ぶ習慣を全部捨て去ることはもったいないように思います。卒業は義務的勉強の終了ではありますが，自主的学習への旅立ちでもあります。学ばなくても何もいわれませんが，学ぶことは人間の成長に不可欠のものですから，どのように学び続けるかは人間の一生に大きな影響を与えます。社会はたえず動き，科学技術は進歩しており，学習の対象は仕事や社会生活の中にたくさんあります。大学で学んだことを応用し，実生活の中から自ら課題をみつけて自立して学ぶ習慣を身につけてほしいものと思います。

もう一つ自立について重要なことは，生活上の自立です。働いて収入を得ても，何かと親の世話になり，親がかりで結婚しマイホームもあてにする主体性のない生活をする人があんがい多いようです。生活面でいつまでも親離れができない人は，社会生活の面でも依頼心からぬけきれず，自主性のない決断力の弱い人間になりがちです。生活のあり方はその人の考えや行動に反映するものであり，自立しない生活関係からは個性豊かな魅力ある人間は生まれないように思います。

さらに，社会生活や家庭生活においても，自分の考えをもたず人の意見にいつも動かされる人は困りものです。人の考えをあてにせずに自分の頭で考える判断力を養う努力をしてほしいものです。考え方の自立は，自主・独立の生き方から生れるように思います。自主的に学び，生活を自立させ，自分の頭で考える自立した社会人として成長してほしいと思います。

第二は，社会進歩への役割を担うことです。私達はさまざまなつながりのもとに生活しているわけですから，自分の仕事や生活のことだけ考えることでは不十分です。学生時代は勉学する身分からいろいろ配慮もあり，社会的無関心のあまえも許されました。しかし，卒業により社会人として自立するということは，社会の発展の一翼を担うことですから，人々のくらしや平和の問題も自分の生き方と結びつけて考える責任があるように思います。皆さんはこれからの社会を動かす担い手ですから，社会の動きに関心をもち，社会進歩の方向で生きることが期待されます。

戦後40年たち，平和が続いたおかげで日本経済は発展し，人々のくらしは随分豊かになりました。しかし，世界は激動しており，私達のくらしや平和が脅かされかねない状況が生じています。高度経済成長のひずみで，大企業の利益はのびても一般労働者の賃金はおさえられ，中小企業の倒産や失業者の増大など貧富の差は拡大しております。政府は「戦後政治の総決算」として，教育・福祉など国民生活予算をきりつめる行政改革，戦後民主教育の見直し再編をはかる教育改革，大型間接税の導入をめざす財政改革をおしすすめ，国民に我慢を求めています。しかし他方で，日米安保条約による役割分担の要求から，軍事費だけが突出したのびを示しています。大国の果しなき軍拡競争から核戦争の危険が増大していますが，核戦争に勝利者はなく「核の冬」で人類が滅亡する危険が科学者により警告され，核兵器廃絶の要求が死活の問題としてかつてなく世界的に高まっています。飽食と使い捨ての国，農産物の余剰に困る国がありながら，大量の飢餓難民が飢え死にする悲惨な民族を救えない政治の貧困には胸が痛みます。

こうした社会現象は私達に無関係な出来事ではなく私達の生活とどこかで結びついています。これからの社会の担い手である皆さん達は，こうしたことに無関心であってはよくないと思います。平和やくらしをよくする課題にも関心をもち，社会進歩の方向を見極め，社会的連帯の中で若者らしい積極的役割を担うことを期待したいと思います。卒業生の皆さんが立派な社会人として成長されることを望みます。

◇◇◇　昭和59年度 停年退職者　◇◇◇

◎工学部　文部教官　教授　高　橋　幸　一　　◎教養部　文部教官　教授　梅　原　隆　章

立 山 連 峰 に 学 ぶ

工学部教授　高　橋　幸　一

着任してわずか5年半で定年退官を迎えました。期間はまことに短いものでしたが，私の生涯において，これ程楽しく，充実した歳月はないだろうと思います。人生の大半を厳しい企業の中で過ごした私にとって，大学の自由は一つの驚きであり，夢のように思われました。もし地上にユートピアが残るとすれば，それは恐らく，こうした学園になるだろうと感じました。しかも富山大学は三千米クラスの見事な日本アルプス連峰を背景とし，ロマンを秘めた能登半島に囲まれた富山湾に臨む位置にあります。

私はこうした学園に暖かく迎えられ，研究と教育の仕事に没頭できたことを，最大の誇りとしています。同時にこうしたチャンスを与えられ，今日まで何かと御援助を賜わった多くの方々には，心からの謝意を捧げるものであります。

ここで企業の中の一員であった頃を思い起こす時，“企業とは問題を解決する場である”ということをよく聞かされたものです。確かに企業の中には，常にあらゆる問題が生れます。技術的な問題にしても限りはありません。しかし，そこで言われる解決とは，その時代のレベル，あるいはその企業のレベルにおいて解決することであり，処置することであったと思います。問題には単純なものから，複雑なものに至るまで様々ありました。しかし技術レベルに格差のある場合，企業が技術提携によって速やかに解決し，時間と経費のロスを最小にすることは当然であります。我が国の多くの企業は最短の期間で解決するため，競って技術導入をしてきました。その導入と技術水準向上のため，私共の半生は費されました。それは必ずしも平坦な道だけではありません。同じような導入にしても，先人の労苦が莫大な場合には，結果は分っていても，かなりの努力を伴なうことがありました。例えば，全く未解決なものを，そのまま引き継ぐこともあって，大変苦労したこともあります。ここに技術レベルは飛躍的に向上し，現時点ではその差が全く見られない程になりました。むしろ私共の方が進んでいるような部分もある位になりました。しかし誇り高き欧米人にとって，技術導入を潔しとしない雰囲気のあることも，忘れてはならないことだと思います。

私共は，いわば問題の解き方を教えられながら，応用問題を解いてきたようなものであります。しかし本当に新しい問題を自ら解いてきた人達と，解き方を教えられて育った人達との間に，違いはないだろうかと言うことであります。日本の企業では，問題は単に解けばよいという風潮が根強いようです。それは自分の力で解かずに，教えられて解く方が経済的に引き合うからであります。日本の企業（株主を含めて）が，もし批判を受けるとすれば，そのような easy going な方式に頼る利益追求ではないかと思われます。しかし本当に民族の将来を考えるとき，単に目先の収益率の向上だけを追うことなく，せめて欧米なみに独力で問題を見つけ，自らの力で苦労してそれを解いて行く分野も残すべきだと思います。そこに企業の本当のモラルも育つ筈であります。そうした努力を企業も株主も忘れないような余裕が欲しいと思いました。

それにつけても立山は実に素晴らしい山だと思います。それは単に三千米を越す山ということだけではなく，室堂，弥陀が原，美女平へと続く壮大な高原を基盤とする山だからであります。そこに展開される雄大な自然には，限りないロマンの生れることも当然であります。しかし，今やバス専用の観光道路がつくられ，誰でも登れるようになってしまいました。技術導入や結果の分った研究開発は，いわば，この急行バスに乗って立山に登るようなものであります。そこには厳しい風雪に耐え，数百年も生きる，素晴らしい原始林のあることなど，恐らく見過されてしまうに違いありません。私は企業の中で見過してきた数多くの原始林の中から，一本の立山杉のような問題を選びまして，これを学問として研究することができました。私はそこに最大の生き甲斐と喜びを感じました。こうしたチャンスを与えられ，御指導下さった多くの方々には，ここに改めて感謝申し上げます。最後に，富山大学が更に発展して，素晴らしい学園ユートピアを目指して行かれるよう，期待して止まないものであります。

定年退官に当って

教養部教授　梅　原　隆　章

今度37年間お世話になった富山大学から退官いたします。旧制富山高等学校に講師となって数年で，新制大学に転換するという事になり，将来の富山大学はどんな構想の大学となるか，全く予想も出来ない状態でした。それでもあれやこれやと理想像を画いて，立派な大学になるように，心から祈念したことを思い出します。いま，回顧してみると，私は最初文理学部に所属し，そのうち文理学部から経済学部が分立することになった。その準備で，文理学部の図書館長をやっていた関係で，昔の高岡高商時代の図書を経済の基本図書として揃える必要があったので，大学のオンボロのトラックで高岡の工学部の図書館から数万冊の本を運ぶことになった。予算もなく炎暑の中に苦労の多い仕事であったが，夏期休暇中に完了して蓮町の図書館に収納したのであった。

次に，五福集中ということになって，文理学部は今の人文学部と理学部一号館の建物に移転することになった。この移転も大変なことであったが，当時の学生諸君が非常に心よく協力してくれたので，無事に大移動が完了したのである。経済学部は文理よりも数年前に五福の県寄附の新築建物（現在の経済の第一棟）に移っていた。

文理学部の移転後，奥田にあった薬学部が五福のキャンパスに集中したのである。高岡の工学部は高岡市や呉西出身の国会議員の反対で，代替の国立施設が出来るまでは移転が保留されることになって，ようやく，昨年から工学部の移転が始まったが，経済成長のピーク時に，「拡充は五福集中ののちに」ということになって，日本では最も講座学科数の少い工学部となったことは，実に残念なことであった。今後の充実をいのる。

文理学部には教養課程と専門課程との両者を持っていたので，私どもは専門と教養の両方を兼担していたのであるが，教養部を独立して一般教養課程の充実と責任体制の確立をはかることになり，文理学部から教養部へ教官を（文理学部と教育学部とから）供出することになった。教養部の定員増が殆んどなかったので，千名の学生を担当するのに教官数が少なすぎて困りぬいた記憶がある。それで，評議会にはかって，非常勤講師は教養部の教官不足を補うために，学内では最優先的に教養の非常勤講師の予算配分があることにきめられたのであった。大学紛争時には学生部長として沈静に努めた。

戦後に発足した新制大学は教養課程を持っていることがその特色である。広い視野で一般教養をマスターし，円満で倫理道徳を養い，よき近代的青年としての人格を形成するために，教養部が一層充実されるように念願するものである。大学発足から今日まで勤務して感謝の心で一杯である。別離に際して御礼申し上げたい。

～ ～ ～ ～ ～ ～ ～ ～

瀋　陽　瞥　見

人文学部教授　三　宝　政　美

瀋陽市は遼寧省の省政府所在地（日本でいう県庁所在地）で人口300余万人。北京，上海，天津に次ぐ過剰人口都市である。遼大（遼寧大学）は省の重点大学として，遼寧省を代表する総合大学で，場所は市の西北にあり，瀋陽駅から約5キロの交通便利な地点に位置している。

中国へ行って，まず素朴なカルチャショックをうけるとしたら，その一つに女店員の態度の悪さがある。但し観光旅行で行った際は，外人専用の「友誼商店」につれて行かれるから，この体験はしないですむ。友誼商店の店員は特別に教育を受けているから，この人達は別なのである。買った品物は包まない，つり銭は投げて返すといった事は習慣の違いとして我慢するとしても，頭は下げない，親切でない，仏頂面している

店員を見るのは気持ちの良いはずがない。その上，物をたずねると，大抵の場合「没有」（無い）の一言であっさりあしらわれて終りである。それでいて，どこの店の入口にも「顧客至上」（お客様は神様です）の横額が麗々しく飾られてあるから，頭にくる。このことは我々日本人だけが怒っているのでなく，実は中国人もみんな頭にきていることなのである。その証拠には中国人と雑談すると，十中八九この話題となる。だが怒ってはいるが，みんなあきらめ顔でいる。なんといっても，あの人口である。足の踏場もないほど混雑するお客を相手に，日本のデパートの店員のように，いちいち頭を下げたり，にっこり笑顔を返していたら，中国の店員は一日で首の骨が痛くなり，顔面神経痛にかかってしまうだろうと誰もが同情してしまうからである。

瀋陽に一店だけスーパーがあると聞いたので，行ってみた。スーパーは中国語で「自選商店」という。言いえて妙である。目当ての店は第一百貨店の三階の一角にあった。入口に店員が見張っていて，手荷物は一切あずけて入らなくてはならない。置いてある品物は日常生活品，菓子類などごく限られた品物でしかない。それでもけっこうお客に喜ばれている理由は，どうやら店員の態度に胸くそを悪くしながら買わずにすむところにあるらしい。入る前に手荷物を置かされるのは，もちろん盗難を恐れてのことである。

書店がどこもカウンター方式であるのは，盗難防止と人口対策のためであろうか。お客はカウンター越しに書架の本を見て注文しなければならない。ここでも時々頭にくる店員に遭遇する。店員はたくさんいるからこそ，それぞれの持分があって，あたかも相互不可侵条約を結んでいるかのようである。こっちはそんな事情は知らないから，あの本を見せてくれと頼むが，それが人の持分であったら，ほんの一二歩で手がとどく本も取ってくれない。こういう時である。日本の店員が神々しく想い起されるのは。

だが最近，書店も近代化の波を受けて開架式に改まってきた。まだ試験的段階だが，北京の王府井支店（新華書店）が全国に先駆けて開架方式をとったところ，市民からたいへんな好評であった，一方万引きの被害も相当なものであったらしい。昨秋の「人民日報」にこのことが取りあげられ，魯迅の小説でお馴染みの孔乙己が「窃書は盗みとは申さん」と開き直った文句が引用され，「窃書はやはり盗みである」と警告していたのが印象に残っている。

遼大の学生数は約4千人，わが富大と似たようなものである。日本の共通一次試験に当る統一試験が毎夏に行なわれる。科目は5科目，文系は国語，歴史，地理，数学，政治。理系は国語，数学，化学，物理，政治で，他に文・理系とも参考として外国語（英・日・露語の中の一つ）科目がある。いずれも「政治」科目が科せられている点が社会主義国らしいところである。なお遼大に入るためには6割以上取らぬとむつかしいとか。大学は全寮制だが，遼大では一年前からこれが崩れてきた。というのは学生数の増加に学寮の増築が追いつかぬためで，ひどい部屋になると八畳程のスペースに12人もつめこまれている。そこでやむなく自宅から通学可能な学生は寮生から除外して通学させざるをえなくなった。

学生どうしの恋愛は原則としてご法度である。しかしそうはいうものの，漸増の傾向にあるらしい。ただあまりおおっぴらにやると，卒業時の分配（国家から職を与えられる）の際に不利になることもあるので，学生達は自主規制している気味がある。分配は卒業生全員になされるから，大学に入ればもう「鉄飯碗」（こわれることのない鉄製のめし茶碗）を保障されたわけで，とたんに勉強しなくなるとは大学教授の嘆きである。「最近の学生は……」という愚痴は，どうも日本だけではないようだが，そうはいうものの日本の学生には考えられない位よく勉学に励んでいると私には見えた。

最近の学生がスポーツに興じるようになったことは確かである。学内でもっとも人気度の高い競技は，バレーボール，バスケットボール，次にサッカーで，とりわけバレー，バスケは屋外にたくさん設備されていていつも賑やかである。卓球は思ったより人気がなく野球，ソフトはまだ知らない学生が多い。学内には党委員会があり，一・二年生を対象に毎週水曜日の午後は党委員による政治学習の時間だが，噂によるとこれが学生達に敬遠されてきているらしい。「みんなでサボレばこわくない」とばかり，政治学習に行かずにグランドに飛び出すという学生が多くなってきたということであるが，あくまで伝聞の域を出ない。文革後，政治離れの現象は地すべり的傾向にあり，近代化路線がこれに拍車をかけている。それだけに中国共産党は学生の入党を必死に呼びかけている。

学生のアルバイもご法度であったが，つい最近になって家庭教師が許可された。だがまだ大学側の認可が必要で，成績優秀，思想堅固のお墨付をもらった学生だけが許され，それも週に何時間以内と制限がある。アルバイトといえば，上海の复旦大学では夜間だけだが学生による喫茶店が開かれていて，超満員の盛況であった。構内の物置小屋を様変りさせたものだが，音楽が流れ，紫煙の充満した中に学生達は楽しそうに語りあっていた。聞けばこの喫茶店を請負った学生は哲学科の学生達とか。なるほど思想は堅固である。

中国の大学はどこも学費は無料だが，最近学費をとる新型の大学が登場した。瀋陽大学がそれで，瀋陽市立だが，学費は一年間に50元である。入学生は瀋陽市民に限られ，現在，日本語科，経済科などあり，これから更に増設していく計画とか。そこの一学生に学費のことを聞いたら，「ぼくらは学費を払っている分，一生懸命に勉強しなければなりません」という答えが返ってきた。日本の学生諸君！このことばを何と聞く？

中国では多くの人々が生活面で不満を持っている。それがエネルギーとなり，上昇志向となってものすごい熱気を感じさせるのである。不満はまた夢に変る。夢を見ることのできることは，社会にとっても，個人にとっても幸福である。日本人はいつしか夢を忘れた国民になっていないか，帰国後そんな気がしてならないのである。

1985. 2. 17

昭和59年度 富山大学公開講座を終えて

公開講座委員会委員長　吉　田　順　作

1. 公開講座　“現代史に学ぶ”

拝啓　此度の“現代史に学ぶ”公開講座に出席させて頂き有難うございました。人文，社会自然，技術と多岐に渡るテーマは大変興味深いもので，私自身は2つの講座だけしか聴講できませんでしたが，職場の者にも薦めて大変好評でした。特に最後の日には柳田学長を始め諸先生方との懇談会で身近にお話をする場が得られた事は私にも始めてで楽しいひとときでした。又来年の講座を楽しみにして居ます。……」

昭和59年11月19日付でT・U氏よりこの様なお葉書を頂いた。58年度より始まった富大の全学的公開講座は59年度が2年目である。59年度は“現代史に学ぶ”のテーマで私がオーガナィザを勤め，11月10日無事「閉講式」「懇談検討会」を終えた訳であった。

私が北大工学部電気工学科を卒業したのは昭和19年9月，太平洋戦争の終る1年前の事だった。それから陸軍技術将校として1年，8月15日は兵庫県小川村で迎えた。晴れ渡った暑い日本晴れの日だった事を覚えている。あれからもう40年，戦後生れが国民のmajorityになった現在，私達の年代にとって生々しい体験と印象を持っている戦中戦後の出来事のあれこれはもはや歴史上の事柄になっている。光陰矢の如しと言うか，月日の経つのが速いのに一驚を覚えていたものである。58年度の公開講座“現代のコミュニケーション”の閉講式の後での懇談会の席上で，一人の受講生より

「太平洋戦争はともかく，明治大正以後のことで私達の知らない事が随分ある様です。次の公開講座のテーマに現代史を取上げてみたら面白いのでは……」

という提案を受けた。私達が習った日本歴史では，神武天皇から明治維新までで，それ以後の現代史は……であるし，科学技術の分野の歴史は現代史そのもの。全学的公開講座のテーマとしては旨く行くのではないかと思ったものであった。

この様な訳で59年度の公開講座“現代史に学ぶ”のオーガナィザを私が引受け，下記の様な最終企画案を決定したのが2月17日の委員会の席上であった。

(1)　10月12日　明治からの日本史　梅原隆章（教養）
(2)　10月15日　日本と朝鮮のかかわり　梶井　陟（人文）
(3)　10月17日　明治からの家族法の変遷　松島道夫（経短）
(4)　10月19日　日本の現代経済史　小松和生（経済）
(5)　10月24日　微生物科学の現代史（注1）　柳田友道（学長）
(6)　10月26日　現代自然保護の動向　小島　覚（教養）
(7)　10月31日　思想の現代史　中本昌年（人文）
(8)　11月　2日　教育の現代史　藤井敏孝（教育）
(9)　11月　7日　放射能の現代史　竹内豊三郎（理学）
(10)　11月10日　エレクトロニクスの現代史　宮下和雄（工学）

実施場所は高岡の中川キャンパスを予定していたが，五福キャンパスでの実施を予定していた企画が中止という事態になって了ったので，58年度公開講座の受講者のアンケート調査の結果などを検討し，五福キャンパスで実施する事とした次第である。（注2）

（注1）実施のときの題名は“バイオテクノロジーの幕明け”と変更

（注2）教育学部を会場として実施した。

5月と9月に講師打合会を2回開き，講師の先生方の気心を幾分摑めた様な気がしたので，オーガナィザを割合気楽に勤められたものであった。

受講申込者59名，常時5割以上の出席で，講師の方々も夫々個性豊かな講演をされ，この公開講座は大成功であったと，自画自賛した次第である。

最終日11月10日閉講式のあと，恒例の懇談検討会を会場を変えて実施したが，受講生より20名，講師陣より7名の参加者があり，実りのある1時間であった。

2. 公開講座“健康スポーツ教室”

例年の通り河野信弘（教育学部）先生のオーガナイズによる“健康スポーツ教室”を下記により実施し，好評であった。

(1)　硬式テニス　8月23日より9月1日まで8日間，山下三郎（教育）北村潔和（教養）両先生の指導で教育学部テニスコートで実施。参加者23名。
(2)　ジョギング　9月10日より10月2日まで10日間山地啓司（教育）先生の指導で実施。参加者18名。

3. あとがき

昭和60年度の公開講座については，現在公開講座委員会で鋭意企画立案中であり，地域社会の要望に充分応えられる様なものを提供し得ると思っている。

来　日　の　感　想

中国政府派遣研究留学生（工学部）　楊　　鴻　鈞

日本はとても立派なお国です。というような話を中国人は時々出している。領土は余り広くなく，資源もそんなに豊富ではなく，それに戦争でひどく破壊されたのに，精々二十何年間たって，再び立派に立ち上がった。アメリカ，ソビエトと併列して，世界の三大経済強国になった。鉄鋼，造船，自動車，電気製品，いずれもすばらしい生産性と技術水準で世界の市場に溢れてゆく。国民の生活水準とか，社会の管理とか，多くの方面は世界の上流に占めている。

つねにテレビとか本とか映画とか，又は何人かの日本友人も知っているので，日本の事情をある程度了解した。けれども現実から見れば，一体どうだろうか，コマーシャルと現実の間，どのような違いがあるか，日本語を習い初めから，いつもそういう好奇心を持っている。

ついに好いチャンスがあり，昨年留学研究生として来日してきた。成田の国際空港に着陸して，飛行機を出，まわりを見ると，なんだか，“立派だな”と自言した。設備条件がいいし，サービスも上手だし，非常に平和で，おちついて，静かでその上にしゃれた感じがしている。成田空港から東京都内への一路，空気がきれい，空が全く晴れていて，木々も繁茂している。高速道路と高層ビルと点滅しているネオンは近代的な感じで満ちあふれている。これは世界一ではないかと考えた。

富山についたら，一変した。じめじめした雨と雪が混じって，降りつづけているので，ちょっとめいる気持にかわったけれど，お出迎え下さった杉林様と草開様はとても親切な態度で接して下さり，わたしは頭がさがる。みぞれが降って，寒いのに，わたしの心は温かく感謝で一杯になった。

研究室に入って，大岡教授（鉄鋼技術界で優れた研究者として，中国でかねがね知っている），高山教官草開教官，多々教授，品川先生，湯浅様，ほかの先生方，研究生方，それに大学の多くのリーダの方々はいろいろとご親切にしてくださった。そのほか，商店の人々，県庁や市役所の職員の方々は皆まじめに親切にしてくれる。中国人はわりにおとなしくて，やさしいと思っていたが，日本の方々はもっと優しいという感じがするようになった。

もちろん，相手に対して親切にすることは責任感の表現のひとつだと思う。さらに，直接仕事方面で見れば，日本の方々はどなたでも自分の仕事をとてもとても真剣にそして大切にされている。大岡教授と多々教授のすばらしい講義プリントとか，草開様は晩遅くまで帰らなくて，一生懸命研究に頑張っているとか，日本の方々の高度の責任感ということは深く心の中に印象を刻みつけられた。

日本がすばらしい国になった原因は，明治維新以来いろいろの開明な政策を採用して，国民全体の協力も加わって，文化水準が高くなり，社会の科学技術レベルと管理レベルは高くなったと言われている。

というものの，日本民族伝統の責任感を重視する国民性も重要なことだろう。一人一人がとても責任感を持って，りっぱな管理をし，りっぱな製品をつくり，りっぱな人間を育てるならば立派な国にならないわけはないだろう。

◇◇◇◇◇ 学 部 だ よ り ◇◇◇◇◇

◆ 教育学部だより

◎ 教育実践研究指導センターだより

―― 教職を志す学生像をめぐって ――

初代センター長　屋　敷　平　州

かねて当教育実践研究指導センターは教育の広場でありたいとの願いを掲げて参りましたが，この点について若干の私見を述べてみたいと思います。

教職を志す学生の立場に即して考えますと，二つの極に係わりながら大学生活を送ることになります。

教育はあくまでも学問を根拠に展開されるものでありますから，M．ウェーバ流にいえば，真理自体，知識自体を追求するという学問的な琢磨と喜びとが甚だ重要でありましょう。

同時に，教育指導という観点に立てば，学問的研究の成果や研究過程を媒介にしながら児童・生徒自体のための教育実践について実証的，体験的研究も必要であります。

従いまして学生には真理自体という極と児童・生徒自体という極，この二つの極を軸に，大学生活の年次を逐って主体的に自転する心掛けに拍車をかけることが求められます。

また，この両極を別の視点から述べますと，学問や理論の基礎が実践にあり，学問や理論が転じて実践に奉仕するという関係に置き換えることが出来ます。真理自体，知識自体へ向かう学問と児童・生徒自体に喰い込む教育指導とについて，児童・生徒を望ましい方向に変様させるという意味での社会的効力をもたらす両者の相互作用関係を大学生活のなかで体現する基礎的学習が求められたといえましょう。このことは学生にとって，ある意味では負担でありましょうが，誇りでもあろうと考えます。

近年学問も応用科学の分野での開拓が進み，実践領域に係わる部門が増加の傾向にあるように思われます。こうした状況のなかでも基礎科学と応用科学の相互触発関係を否定出来ない面もありますが，当センターにおいては取り入れるべき分野を導入し，今後ともそのように努めていきたいと考えており，この方面に対する学生の関心を期待いたしております。

次に更に視点を換え，教育実践の主体としての人格についても触れてみたいと思います。古来，哲学者は多いが哲人は少ないといわれております。ここでは，哲学者を軽んずるわけでもなく，また哲人のみが勝れた哲学者であるというわけでもなく，唯事実の指摘に留まると理解しておきたいと存じます。真理自体を追求する哲学者と自己自身の根源的な在り方を哲学的，実践的に探求する哲学者とがいるということであろうと。

ところで人間自体を問題にし，それを自己の在り方に関わる重大事として追求する場合，あるいは人間関係によって成り立つ児童・生徒の覚醒が問題となる教育実践の場では，哲人的というべきか，教育者的とでもいっていいか，とにかくそうしたものへの自覚的な自己形成への努力が必要となるように思われます。上述いたしました主体的な自転や理論と実践の相互作用関係の体現への努力のなかで，学生が勝義の人間的な人格陶冶の成果を収められることも期待されていると思われます。

以上申し述べて参りました教職を志す人達への試論的像は，実は当センターの課題とも深く係わるところであります。

しかし，この課題の解決には，学内外の諸先生及び学生諸氏との様々な形での連携が不可欠であります。教育の広場としてのセンターの自己努力と各位の連携，活用研究に役立つ足掛かりとなるような努力をいたしたいと思いますので，宜敷しくお願いいたします。

◎ 日本科学教育学会第9回年会開催に当っての
お知らせとお願い

日本科学教育学会第9回
年会実行委員長
教育学部　林　　良　重

日本科学教育学会第9回年会は，昭和60年7月30日～8月1日に富山大学教養部を主会場として，下記のとおり開催されます。本学会は科学教育（理科・技術・家庭・数学など）を研究するのみならず，教育を科学的に研究する学会でもあります。したがって，研究分野は教師教育，授業分析，授業設計，環境教育，CMI，CAI，教材開発，情報処理教育，教育評価，教育メディア，教育におけるシュミレーションとデーターベースの利用などの研究も含まれます。つきましては，本学会に理系，教育系のみならず，多数の先生方がご入会下さるようおすすめ申し上げます。また，第9回年会が成功しますようご参加とご協力をお願い申し上げます。

記

7月30日(火)　午前　総会　研究発表会
　　午後　研究発表会
7月31日(水)　午前　シンポジウム　研究発表
　　午後　研究発表
8月　1日(木)　午前　研究発表

◇◇◇◇ 学生部だより ◇◇◇◇

◆ 共通第1次学力試験の実施について

昭和60年度大学入学者選抜共通第1次学力試験が，昨年より10日ほど繰り下げ，去る1月26日(土)，27日(日)の両日にわたって全国一斉に実施されました。共通第1次の制度が始まって以来本年は第7回目のものです。

富山県では，県内で受験を志願している者が4,171名（男2,605名，女1,566名）あり，富山大学3,271名（男2,044名，女1,227名），富山医科薬科大学（富山中部高校で実施）900名（男561名，女339名）でそれぞれ実施されました。

本学では，試験実施委員会で計画された実施体制に基づき，五福地区6試験場において柳田学長を実施本部長とし439名の教職員が試験に携わり，初日は，国語，数学，外国語の3教科，2日目は，社会，理科の2教科を予定どおり終了しました。

なお，本学関係の受験状況は，次のとおりでした。

志願者数	欠席者数	受験者数	欠席率
3,271名	73名	3,198名	2.2％

◆ 体育系サークルリーダー研修会について

本年度の研修会は，2泊3日の日程で山野スポーツセンターにおいて，下記のとおり実施され，各サークル代表者が参加し，熱心な討論を重ね有意義に終了することができましたことを報告するとともに，ここにあらためて関係各位に感謝いたします。

なお，今年度は，特に学外の講師等を招いて講演等を行いました。

◎実施概要

期　　日　昭和59年10月1日(月)～3日(水)
　　（2泊3日）
場　　所　富山県体育協会　山野スポーツセンター
　　（富山県上新川郡大山町本宮）
参 加 者　体育会副会長　本田　弘　（学生部長）
　　講師等　　有沢一男（教養部教授）
　　西川友之（教育学部助教授）他4名
　　体育会役員及び体育会所属サークルのリーダー　66名
研究項目　－ リーダーの条件 －
　　• リーダーとはどういうものか
　　• クラブのあり方
　　• 後輩の育成，クラブの和
講 演 等　“組織の中の人間”
　　教養部教授　有沢一男
　　“私の歩んだ道”
　　新日本製鉄KK　安田寛一

"スポーツ活動における救急法について"
日本赤十字社　八木正徳
"テーピング実習"
ソニー企画KK　管井靖典
"トレーニング実習"
教育学部助手　堀田朋基

◆　スキー講習会について

本年度のスキー講習会は，1月7日から13日までの1週間にわたり，約140名の学生が参加し，11名の指導教官のもとに志賀高原ブナ平スキー場を中心として行われた。今回は，積雪も多く連日晴天に恵まれ初日から絶好のコンディションのもとでの講習会となり，多大の成果をあげ無事終了することができました。これもひとえに指導いただいた諸先生方並びに体育会の学生諸君のおかげと深く感謝いたします。

∞∞　スキー講習会を終えて　∞∞

スキー講習会実行委員長　畑　中　秀　夫

本年度のスキー講習会は，例年通り1月7日から13日までの6泊7日の日程で，長野県志賀高原にて開講されました。25回目を迎える今回のスキー講習会は，昨今のスキーブームも手伝ってか数多くの希望者がつめかけましたが，最終的に132名の学生が参加することになりました。

今年は昨年に続いての豪雪のため，おりあしく7日早朝に新潟県内で土砂崩れがあり，国道8号線が通行止めになりました。そのため急遽，北陸・名神・中央高速道路を経由して志賀高原へ向かうことになり，結局，予定より8時間遅れの深夜零時に発哺温泉に到着しました。しかし，講習中はこの豪雪のおかげか，すばらしいパウダースノーがゲレンデー面に蓄えられており，さらに，本講習会はじまって以来といわれるほどの晴天が連日続き，志賀高原は心から我々を迎えてくれたように思いました。このため，日中は指導教官，受講生が一体となり，熱のこもった講習が連日行われ，たいしたケガ人もなく，初心者から上級者までスムーズに講習内容をマスターできたものと思います。帰宿後は，幾度となく班別ミーティングや懇談会が設けられ，学生間及び学生・教職員相互の親睦が深められたことと思います。

この一週間の講習中，上質の雪と多数くのゲレンデ，そして大パノラマをもつ厳冬の志賀高原において，スキーを媒介として，大自然の暖かさ，厳しさ，そして雄大さをはだで感じとれたものと信じています。さらに，規律正しい集団生活を通じて協調性が養われ，また，学生間及び学生・教職員の懇談により，より一層の人間形成がはかられ，強い信頼感を持てたことと思います。

最後になりましたが，本講習会に際して，絶大な御協力を賜わりました学生部並びに指導教官の方々に心から御礼申し上げます。

◆ 昭和60年度富山大学入学志願者数調

学部	学科・課程	昭和60年度			昭和59年度			備考
		募集人員	志願者数	倍率	募集人員	志願者数	倍数	
人文学部	人文学科	90	270	3.0	90	425	4.7	
	語学文学科	80	208	2.6	80	202	2.5	
	計	170	478	2.8	170	627	3.7	
教育学部	小学校教員養成課程	140	305	2.2	140	176	1.3	
	中学校教員養成課程	50	183	3.7	50	110	2.2	
	養護学校教員養成課程	20	58	2.9	20	43	2.2	
	幼稚園教員養成課程	30	123	4.1	30	74	2.5	
	計	240	669	2.8	240	403	1.7	
経済学部	経済学科	120	390	3.3	120	327	2.7	
	経営学科	120	573	4.8	120	544	4.5	
	経営法学科	60	293	4.9	60	287	4.8	
	計	300	1,256	4.2	300	158	3.9	
理学部	数学科	40	59	1.5	40	78	2.0	
	物理学科	30	50	1.7	30	88	2.9	
	化学科	40	58	1.5	40	83	2.1	
	生物学科	30	71	2.4	30	63	2.1	
	地球科学科	30	74	2.5	30	68	2.3	
	計	170	312	1.8	170	380	2.2	
工学部	電気工学科	50	94	1.9	50	111	2.2	
	工業化学科	45	206	4.6	45	104	2.3	
	金属工学科	40	138	3.5	40	175	4.4	
	機械工学科	50	155	3.1	50	125	2.5	
	生産機械工学科	40	116	2.9	40	131	3.3	
	化学工学科	40	113	2.8	40	145	3.6	
	電子工学科	40	63	1.6	40	68	1.7	
	計	305	885	2.9	305	859	2.8	
合計		1,185	3,600	3.0	1,185	3,427	2.9	

㊟ 理学部物理学科の募集人員には，第2次募集人員(10)を除く。

◆ 学生証の査証について

1・2・3年次生は，各学部の学務係（教養部においては学生係）で，昭和60年度の査証を行いますので必ず受けて下さい。

なお，査証を受けない学生証は無効となります。

◆ 五福構内の交通事故防止について

最近，五福構内における交通事故は，増加の傾向をたどっております。

学生部で過去3年間（昭和57年2月1日～昭和60年1月31日）五福構内で発生し届出のあった交通事故について調べた結果，下記場所において31件発生しています。特にここ1年間では20件と頻発しました。

また，これら31件に関係した車種は，自動車42台，自動二輪車16台，自転車3台となっています。

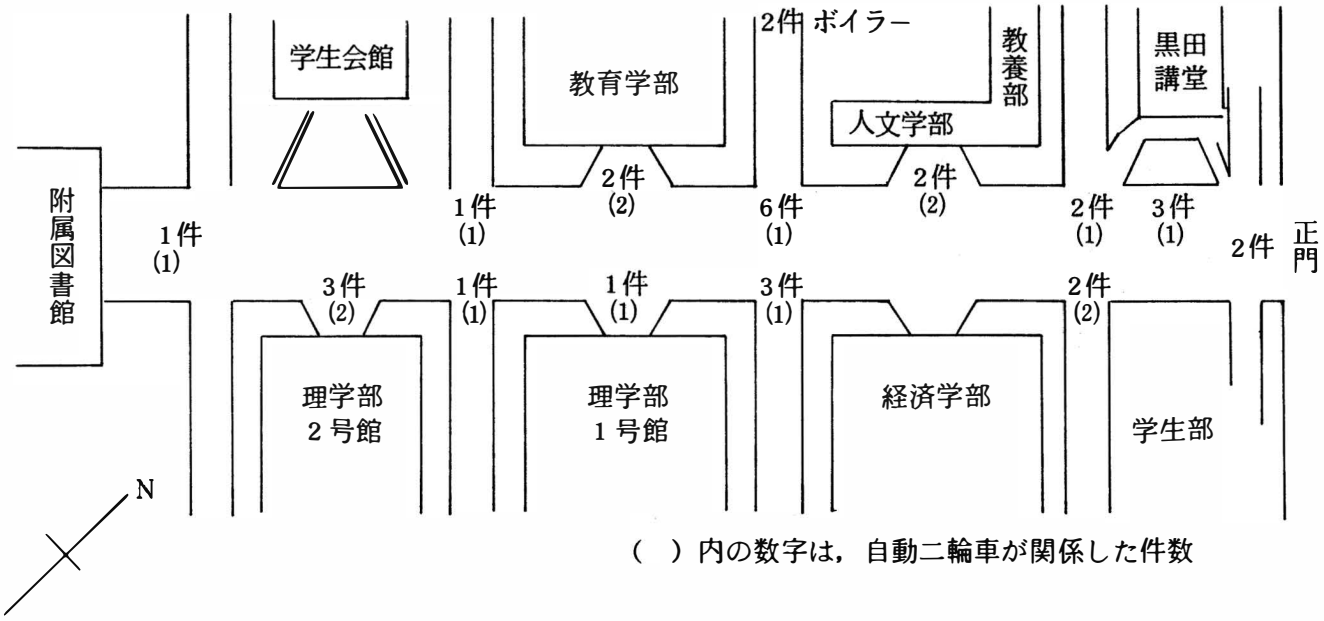
幸い事故の多くは，接触事故のため，軽い怪我程度ですんでいますが，各自，自動車，自動二輪車等の運

転には十分注意し，交通事故防止に心掛けてください。

なお，万一，構内で交通事故を起こした場合は，直ちに，所属学部（教養部）又は，学生部に連絡ください。

五福構内で発生した事故場所　（昭和57年2月1日～昭和60年1月31日）

31件（16件）



（　）内の数字は，自動二輪車が関係した件数

◆　富山大学学生健康保険組合規約及び同細則の一部改正について

昭和60年1月24日開催の理事会において下記のとおり承認されたのでお知らせいたします。

（改正理由）

本学の学生健康保険組合は発足以来，26年を経過している。近年，本組合における医療費給付額も年々増加し，昭和49，53，56，59年において医療診療費の値上げもあり，また54年度からは組合員一人当りの給付金額が組合員一人当りの組合費年額700円を超えているので，この現状を改善するため組合費年額を1,200円に値上げしたい。

また，学則の改正により，「専攻生」を削ることとし，さらに，「医療費請求書」の様式を簡略化するため，次ぎのとおり規約及び細則の改正をしたい。

富山大学学生健康保険組合規約の一部を改正する規約

1. 第4条ただし書中の「専攻生」削る。
2. 第22条の(2)中「30,000円」を「35,000円」に改める。
3. 第27条中「700円」を「1,200円」に「2,800円」を「4,800円」に改める。
4. 第27条第3項中「700円」を「1,200円」に改める。

附　則（昭和60年1月24日改正）

この規約は，昭和60年4月1日から実施し，昭和60年度入学生から適用する。

㈱：昭和59年度以前に入学した者については，なお従前の例による。

富山大学学生健康保険組合規約改正案対照表

旧	新
第4条　組合は，本学の学生（大学院，専攻科学生を含む。以下「学生」という。）全員を組合員として組織する。ただし，専攻生，研究生，聴講生及び特別聴講学生は除く。	第4条　組合は，本学の学生（大学院，専攻科学生を含む。以下「学生」という。）全員を組合員として組織する。ただし，研究生，聴講生及び特別聴講学生は除く。

第22条　医療費は，歯科を除き次によって給付する (1)　略 (2)　前号に定める医療費の一人当りの年間総給付額は30,000円を限度とする。 (3)　略 (4)　略	第22条　医療費は，歯科を除き次によって給付する (1)　略 (2)　前号に定める医療費の一人当りの年間総給付額は35,000円を限度とする。 (3)　略 (4)　略
第27条　組合費は，年額700円とし，入学の際4年分2,800円を納入するものとする。 (2)　略 (3)　組合員が，休学又はその他の事由により，在籍する期間が所定の年限を超えるときは，超えた年限1年につき700円をその年の4月末までに納入するものとする。	第27条　組合費は，年額1,200円とし，入学の際4年分4,800円を納入するものとする。 (2)　略 (3)　組合員が，休学又はその他の事由により，在籍する期間が所定の年限を超えるときは，超えた年限1年につき1,200円をその年の4月末までに納入するものとする。

富山大学学生健康保険組合細則の一部を改正する細則

第4条中の第1号様式を次のように改める。

附　則

この細則は，昭和60年4月1日から適用する。

（第1号様式）　　富山大学学生健康保険組合

昭和　年度 医療費請求書

受付　第　号　月　日

組合記入欄：副理事長／常務理事／幹事／係／決裁

給付金額　金　円也

下記のとおり請求があったので給付してよろしいか伺います。

組合員（学生）記入欄

下記の医師又は薬剤師の記入に基づき療費の給付を請します。

昭和　年　月　日　金　円也

学部　学科課程　学籍番号　－

氏名　㊞　男・女

現住所　方　電話（　）　番

利用した社会保険の種別：□健康保険 □国民健康保険 □共済組合 □その他（　）□利用しなかった

給付率　割

傷病発生場所：□講義中 □実験実習中 □講外活動中 □その他

医師又は薬剤師記入欄

昭和　年　月分（内訳）

住居別：□自宅 □学寮 □下宿 □間借 □その他

初診料	点
再診料	点
往診料	点
投薬料	点
注射料	点
処置料	点
手術料	点
検査料	点
レントゲン料	点
入院料（食費及び附添人の経費を含まないこと）	自　月　日　至　月　日　日間　点
その他	
請求計	点　円

□入院　□入院外

傷病名 (1) (2) (3)

診療開始日 (1)　年　月　日 (2)　年　月　日 (3)　年　月　日

診療実日数　日

転帰：治療 繰越 転医 中止

殿　月分医療費

金　円也

上記の金額（左記内訳による）を正に領収いたしました。

昭和　年　月　日

診療担当者住所氏名印　㊞

学園ニュース編集委員

学生部長	本田　弘	理学部	松本賢一
人文学部	山口幸祐	〃	広岡公夫
〃	服部良久	工学部	多々静夫
教育学部	佐々木浩	〃	杉本益規
〃	山本都久	教養部	高安和子
経済学部	正亀芳造	〃	山本孝一
〃	中藤康俊		